1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	笠間城跡	都道府県	茨城県	市町村	笠間市
文化財種別	市指定史跡	指定年月日	平成5年3月26日	指定面積	37,000㎡
その他の指定		その他の法規制	茨城県立笠間自然公園特別地域、風致保安林、鳥獣保護区特別地域		
保存活用計画	☐有 ☑無	整備基本計画	☐有 ☑無		
調査担当部署	笠間市教育委員会教育部生涯学習課文化振興室	整備担当部署	笠間市教育委員会教育部生涯学習課文化振興室		
管理担当部署	笠間市教育委員会教育部生涯学習課文化振興室	指定管理者			
委員会設置状況	笠間城跡調査指導委員会	その他計画			

城郭等の概要	笠間城跡は鎌倉時代前期に笠間時朝によって築城されたといわれ、中世を通して笠間氏の居城であった。天正18年(1590)に笠間氏が没落すると、宇都宮家臣の玉生氏が城主となり、登城路の整備を始め、慶長3年(1598)に蒲生郷成が城主になると、笠間城の近世城郭化が始まり、天守曲輪を整備し、石垣を築いた。元和８年(1622)に浅野氏が笠間藩主になると、浅野長直の時代に政務を執るための下屋敷を建設したが、山上の笠間城をそのまま存続した。井上家が藩主の時代に、天守が改修されており、牧野家が藩主の時代には、風雨によって崩落した石垣・堀の修復が行われていることがわかっている。

石垣の面積	約175 ㎡（未計測は含まない）	石垣の総延長	約0.175 ㎞（未計測は含まない）

石垣の特徴	笠間城の石垣は総石垣ではなく、部分的・局所的に石垣が構築されている。石垣で顕著なところは、天守曲輪の三段の石垣(下段・中段・上段と仮称)であり、下段の石垣の隅角部には算木積が採用され、築石面は布積み崩しや打ち込み接ぎがみられる。大手門裏側の石垣については、城内で一番古い可能性があり、築石面は乱積みのような積み方がされている。石材についても、比較的高く築かれている石垣(天守曲輪・大手門裏・西の沢)は石材加工があまりされていないのに対し、玄関門周辺や大手門土手に施されている石垣は、四角の切石を使用している。一般的に切石を使用するのは構築年代が下るといわれているが、構築場所による違いも考慮しなければならない。具体的な構築年代は不明であるが、慶長期まで遡る可能性もあり、近世初頭には存在していたことが推測できる。
近代以降の動向	明治3年(1871)に笠間城の破却を願い出て許可される。明治5年(1873)に天守曲輪に佐志能神社を再建。明治12年(1879)に笠間城の八幡台櫓が真浄寺に移築される。昭和39年(1964)、佐白山観光道路の開通により、石垣の一部が取り壊され、曲輪等の一部が掘削される。
維持管理の概要	本丸にあたる城跡公園の草刈及び、倒木が生じた場合には倒木の除去を行っている。台風や大雨などの際には、目視で状況の確認を行っている。

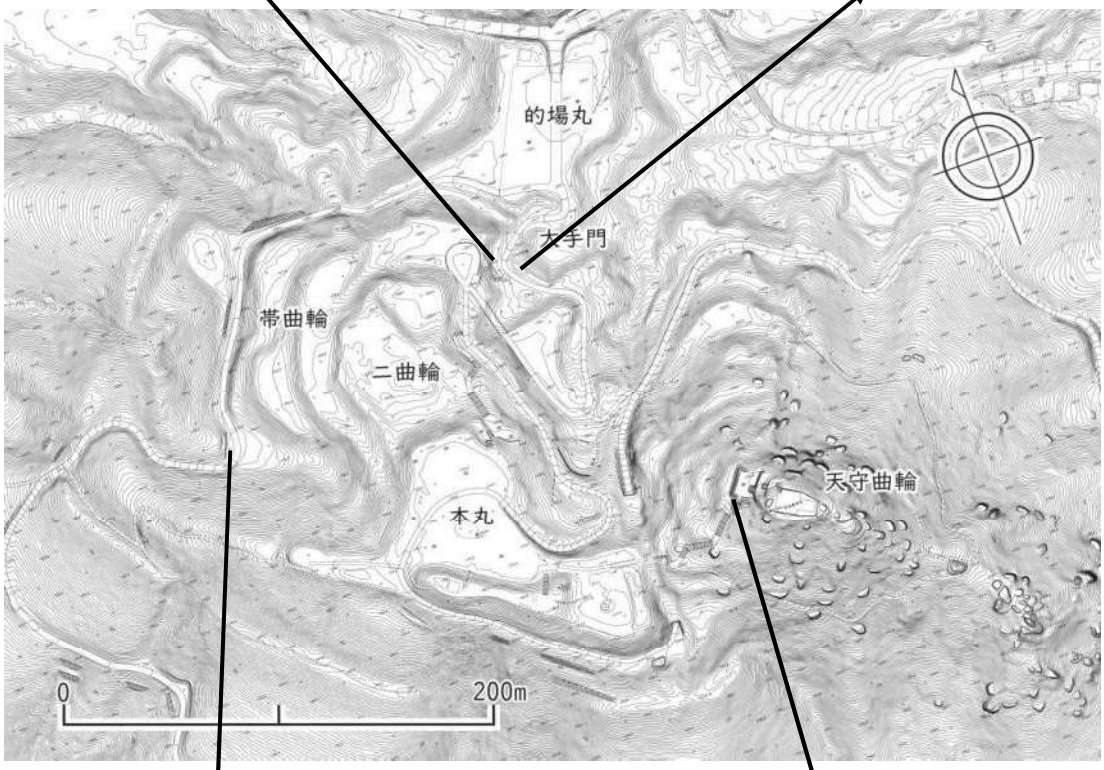
2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



大手門裏の石垣



大手門脇石垣





西の沢の石垣

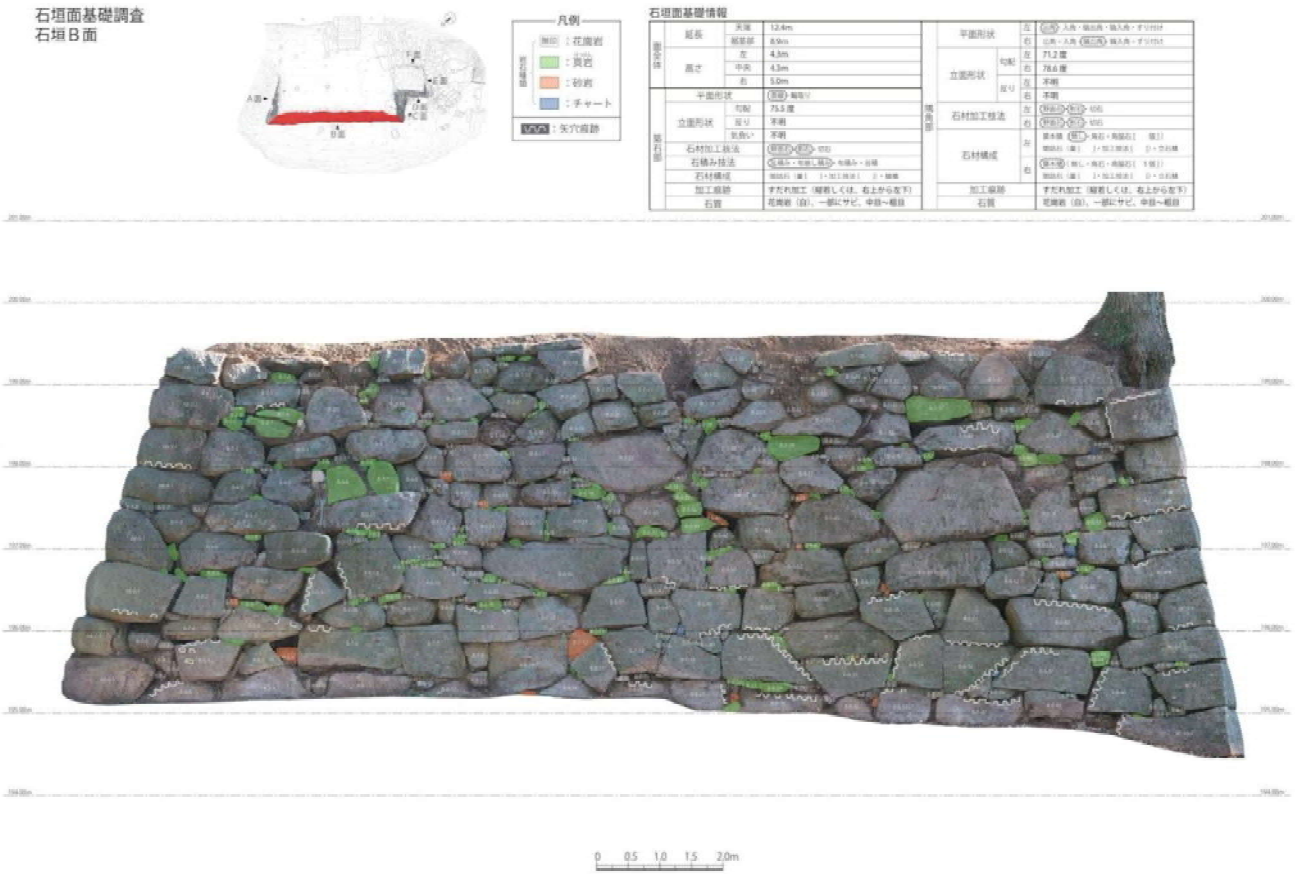


天守曲輪石垣（応急処置後）

参考文献	『笠間市史　上巻』1993　笠間市 『笠間城跡保存整備基礎調査報告書』2014　笠間市教育委員会 「笠間城跡石垣応急処置について」『第37回　茨城県考古学協会研究発表会　資料』2015　茨城県考古学協会 「笠間城跡」『かさま歴史ブックレット4　戦国の城を読み解く』2022　笠間市教育委員会

3. 石垣カルテの作成状況	
カルテの作成状況	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約30%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約50%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☑ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[2014] 年　最終更新：［　］年
管理方法	☑ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］
4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況	
予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[専門職員の不足による　］
実施方法	☐ 自治体直営　☑ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	
5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)	
石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☐ 公園施設の既存側溝　☐遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］
6.3Dデータの取得・活用状況	
3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑一部取得済（50%）　☐未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☐ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）





笠間城跡天守曲輪石垣応急処置成果より（受託者：文化財保存計画協会）

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐有 ☑無　　計画名［　　］　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	☐ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	R6.大手門脇石垣周辺の枯損木等の危険木伐採および樹木剪定
植栽管理における課題(自由記述)	石垣所在箇所の所有者や自然公園などの関係法令との調整、樹木伐採方法（重機が進入できないなど）

9.日常点検･実施体制

日常点検の内容	☑石垣の変状（孕み、緩み等）　☐間詰石の抜け落ち　☐地形の変状（ひび、沈下等） ☑樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☐排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑目視　☐機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	☐毎日　☐週1回程度　☐月1回程度　☐年数回の定期　☐災害後のみ　☑随時
点検の主体	☐整備部署　☑調査部署　☐管理部署　☐委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ある　☑無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐行っている　☐今後行う予定　☑行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	立ち入り規制（危険石垣周辺に近づかせない）、調査指導委員会等で状況報告、 （必要に応じて）現状危険度の調査
日常点検における課題(自由記述)	確認できる職員（専門職員）が不足しており、目視の回数が限られてしまう。

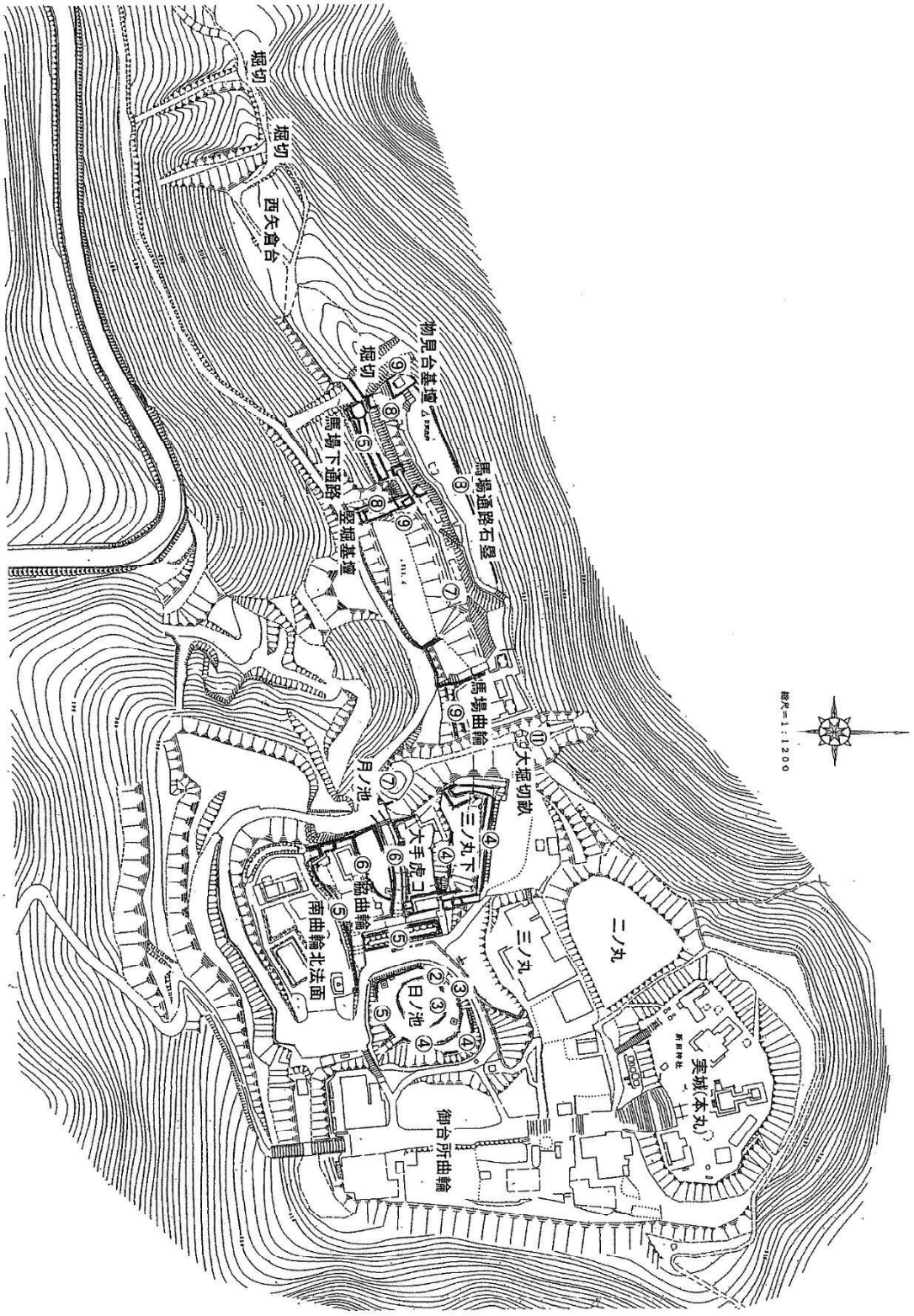
10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☑普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　］
近現代の修理記録の把握度	☐明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐近年の大規模な修理のみ把握している その他　［東日本大震災後の応急処置以外の修理記録は把握していない（実施していない）　］
修理履歴･記録の活用状況	☐今後の修理計画の検討に活用している ☑日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡金山城跡	都道府県	群馬県	市町村	太田市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	1934/12/28 2002/09/20 (追加指定)	指定面積	978000㎡
その他の指定	市指定天然記念物　金山の大ケヤキ	その他の法規制	都市計画法、群馬県風致地区内における建築などの規制に係る条例、都市公園法、太田市都市公園条例、森林法、森林病害虫等防除法、鳥獣の保護		
保存活用計画	☐有 ☑無　現在策定中	整備基本計画	☑有 ☐無	平成5年度(第1期)、平成1	
調査担当部署	太田市教育委員会文化財課	整備担当部署	太田市教育委員会文化財課		
管理担当部署	太田市教育委員会文化財課	指定管理者			
委員会設置状況	金山城跡調査整備専門委員会(平成7年度～16年度) 史跡金山城跡及び新田荘遺跡調査整備専門委員会(平成17年度～)	その他計画			
城郭等の概要	関東平野北部にある独立丘陵の金山（海抜239m）に立地。文明元年（1469）に新田氏末裔の岩松家純により築城、その後、下剋上により岩松家家宰の横瀬氏（のちの由良氏）が実質的な権力を握り全盛期を迎えた。武田氏・上杉氏・小田原北条氏などの有力戦国大名の攻撃に幾度も耐えたが、小田原北条氏の支配するところとなり、天正18年(1590)前田利家らにより接収され、廃城となった。山の地形を利用した曲輪配置、岩盤（凝灰岩）を削り出した堀切、石垣を多用した土塁などの防御施設のほか、巧妙に工夫され守りやすく攻められにくい城内通路、「水の豊富さ」をアピールするかのように通路脇に配された池や井戸、石組み水路などの特徴を随所で見ることができる。				
石垣の面積	㎡	石垣の総延長	㎞		
石垣の特徴	「布目積み」を主体とし「布目くずし」も見られる。 溶結凝灰岩を使用した石材で造られている。				
近代以降の動向	明治維新後の金山は、明治4年(1871)まで政府の管理下に置かれたが、明治5年(1872)御林の民間払い下げにより民有地化が進んだ。献上松茸については、民間払い下げ時に一時中断があったものの、昭和39年(1964)まで続いたとされている。 その後、平成4年度から平成17年度まで整備事業に向けた基礎資料を収集するための発掘調査が行われ、平成6年から平成13年にかけて発掘調査成果に基づき「通路形態」の復元を目指した整備を実施した。 また、平成18年には見附出丸・南土塁について「遺構の顕在化」「遺構の保護」のために整備を実施した。 なお、平成19年、20年度の2ヶ年で金山城跡の歴史を紹介する歴史学習の場、金山来訪者の憩いの場として「史跡金山城跡ガイダンス施設・金山地域交流センター」を建設、平成21年5月30日に開館した。				
維持管理の概要	史跡金山城跡においての維持管理は、実城域を中心とした整備箇所について、ボランティア団体である金山城保存会による月2回の除草作業を中心とした清掃作業が行われている。 また、春(例年4月頃)には金山城保存会および文化財課職員、冬(例年12月頃)には左記に庁内の関係部署を加え、除草作業および冬は落葉清掃を中心とした美化活動を行っている。 この他、令和7年度からは専門業者への業務委託による草刈を特に雑草等の繁茂が激しい夏季に2回程度実施している。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）



参考文献	第1回全国城跡等石垣整備調査研究会資料集　平成16年（2004） 史跡金山城跡保存管理計画書　平成20年(2008)

3. 石垣カルテの作成状況	
カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：［　］年　最終更新：［　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☐ 時間的不足 その他［　］
4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況	
予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☐ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	
5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)	
石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☐ 公園施設の既存側溝　☑遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［浅いグレーチング構造の排水溝を設置　］ その他［　］
6.3Dデータの取得・活用状況	
3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☐一部取得済（　%）　☑未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☐ 地上型3Dレーザースキャン　☐ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☑ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

石垣カルテ・耐震予備診断は未実施のため、
図面・写真等なし

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐有 ☑無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針(天端･法面･根石付近)	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☑ 未実施 その他　［
植栽管理の実績･内容等(直近5年以内)	R6：倒木・かがり木等の危険木が発見された際の危険除去を目的とした樹木伐採。R7：R6と同じ。 R8：景観等の阻害要因となっている樹木の伐採
植栽管理における課題(自由記述)	原則として危険木・かがり木が発見された場合の危険除去を目的とした樹木伐採等を中心に対応することが多く、修景のための剪定・伐採にまで手が回らないのが実情である。

9.日常点検･実施体制

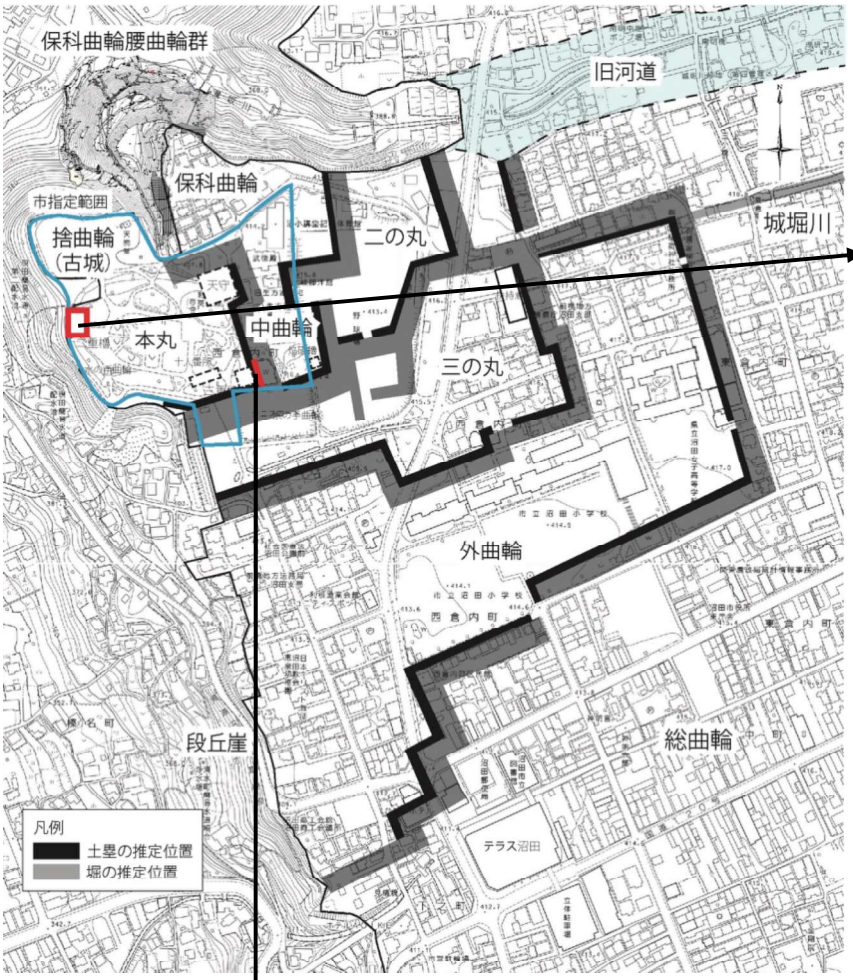
日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☐地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☑排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☑ 毎日　☐週1回程度　☐月1回程度　☐年数回の定期　☐災害後のみ　☐随時
点検の主体	☑ 整備部署　☐調査部署　☑管理部署　☐委託（指定管理等）　☑ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑行っていない
変位確認後の対応スキーム(自由記述)	
日常点検における課題(自由記述)	現在の日常点検はガイダンス施設職員による日常巡視と職員による随時の巡視を行っているが、定期的な頻度かつ網羅的な点検体制をいかに構築するかが課題と感じている。

10. 石垣修理履歴･記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　史資料は残されておらず、時期・場所の特定はされていない
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴･記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

１．城跡等の総括的事項					
名称（遺跡名）	沼田城跡	都道府県	群馬県	市町村	沼田市
文化財種別	沼田市指定史跡	指定年月日	昭和51年3月30日	指定面積	38,400㎡
その他の指定	旧生方家住宅（国指定重要文化財）	その他の法規制	都市公園法（沼田公園） 沼田市都市公園条例 群馬県景観条例 沼田市くらしの環境美化条例		
保存活用計画	無し	整備基本計画	無し		
調査担当部署	沼田市教育委員会文化財保護課	整備担当部署			
管理担当部署	沼田市都市建設部都市計画課（都市公園の維持管理） 沼田市教育委員会文化財保護課（文化財の保護･活用）	指定管理者			
委員会設置状況	沼田公園長期整備構想推進委員会(平成6年～) 沼田城跡調査・保全整備委員会(平成29年～) 沼田城跡調査・保存整備委員会専門部会(平成29年～令和7年)	その他計画	沼田公園長期整備構想（平成4年）		
城郭等の概要	沼田城は、天文元年(1532)頃、沼田氏によって築城された。北条氏・上杉氏により争奪が繰り返されたが、天正8年(1980)に真田氏が領有し、本丸・二の丸・三の丸・奥御殿等が整備された。天正17年(1589)、豊臣秀吉の沼田領裁定により北条氏に渡ったが、天正18年(1590)に北条氏が滅びると再び真田氏の領有するところとなった。慶長元年（1596）から、真田信之は天守・櫓・四の丸・土手・升形・惣堀を整備し、この頃の状況は「正保城絵図 上野国沼田城絵図」に描かれ「五層の天守を有する沼田城」の姿が多くの人に共有されている。万治元年(1658)から、真田信直(信利)は本丸地盤の嵩上げをはじめ天守等施設を改修した。天和元年(1681)、信直が改易され、翌天和2年(1682)に沼田城は破城された。元禄15年(1702)、本多正永が入り城の再築を命じられ、大手枡形門・堀・土手のほか三の丸に藩庁と御殿を築いた。以後、沼田藩主となった黒田氏、土岐氏は三の丸の藩庁を使用し、本丸等に施設が再建されることはなかった。石垣は、文献記録では天正期と慶長期に真田氏によって構築され、万治・寛文期に修復を行っている。現在、本丸東面石垣の一部と西櫓台石垣4面が残存している。				
石垣の面積	約172 ㎡	石垣の総延長	0.096 ㎞		
石垣の特徴	本丸東面石垣は、大型で横長の割石を横目地を通して積む。一部は小型方形の割石で積み直す。西櫓台石垣は、4面でそれぞれ積み方が異なる。東面は自然石を多用し、築石左右の接点を確保せず間詰め石を多く用いる。南面は大型で不整方形の石材を乱積みする。西面は大型横長の割石を横目地を通して積んだ上に小型横長の割石を積む。北面は不整方形の自然石及び割石を乱積みする。石材は武尊山由来の安山岩を用いるが、文献記録から市内奈良坂及び観音坂から採取・運搬したものと考えられる。				
近代以降の動向	明治維新後払い下げられ荒廃したが、元沼田藩士家の久米民之助が私財を投じて本丸・二の丸・三の丸の一部の用地を買収、大正5年（1915）から総合公園の造成を行った。大正15年（1925）、完成した公園を当時の沼田町に寄贈した。昭和31年（1956）、都市公園に認定。				
維持管理の概要	沼田市都市建設部都市計画課が、都市公園として維持・管理を行っている。西櫓台西面西垣は、平成19年(2007)2月から、錘による変形の観察を行っているが、同年7月の新潟県中越沖地震の際に変化が見られ、以後少しずつ変形が進行している。				

2．城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





西櫓台（南西から）



西櫓台西面石垣（南西から）



西櫓台東面石垣（南東から）



本丸東面石垣（北東から）

参考文献	沼田市教育委員会　2024　『沼田城跡　石垣調査報告書』 沼田市教育委員会　2025　『沼田城跡　調査総括報告書』

3. 石垣カルテの作成状況	
カルテの作成状況	昨成済　一部作成済（作成率：約　%）　✓未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	昨成済　✓一部作成済（作成率：約72%）　未作成 その他［　］
作成担当部署	管理部署　整備部署　✓調査部署 その他［　］
実施主体	✓自治体職員　民間委託業者　専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　] 年　最終更新：［　] 年
管理方法	紙台帳　Excel・Word等　GIS　3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	毎年　数年に一回　随時　更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	予算不足　専門職員不足　✓時間的不足 その他［　］
4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況	
予備診断の実施状況	✓実施済　一部実施済　実施中　未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	✓自治体直営　委託　専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	予算不足　専門職員不足　時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	
5．降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）	
石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	植栽による遮水　不透水層の設置　遮水シートの埋設　表面舗装 ✓未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	✓公園施設の既存側溝　遺構に影響を与えない新設排水　復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］
6．3Dデータの取得・活用状況	
3Dデータの取得状況	全面的に取得済　✓一部取得済（72%）　未取得（計画中）　予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	地上型3Dレーザースキャン　✓UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 航空レーザー測量　スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	調査・研究　✓記録保存　経年変化の差分解析等 VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7. 石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

予備診断結果

本丸東面石垣は概ね安定している。モルタルによる護岸が石垣の下端部を覆っており、安定に寄与している。西櫓台石垣は、現代工法を加えて修復を実施した南面石垣と、破城後埋められたと考えられる東面石垣は安定している。北面石垣は既に多くの部分が崩落している。西面石垣は変状が進行中で、櫓台上面にあるヒガンサクラの影響も危惧される。

予備診断結果

		本丸東面石垣	西櫓台西面石垣	西櫓台南面石垣	西櫓台北面石垣	西櫓台東面石垣
基本情報	積み方	布積み	布積み	乱積み	布崩し積み	布積み
	高さ	1.63m	2.8m	2.0m	2.0m	2.3m
	勾配	66度	75度	85度	70度	72度
	石材形状	割石	割石	割石	自然石、割石	自然石、割石
	石材合端加工	粗加工	粗加工	粗加工	自然石まま、粗加工	自然石まま、粗加工
	石材岩石種	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩
	石材控長	60cm以下	60cm以下	60cm以下	60cm以下	60cm以下
	石垣タイプ	非石塁（栗石層＋盛土）	非石塁（栗石層＋盛土）	非石塁（栗石層＋盛土）	非石塁（栗石層＋盛土）	栗石無し、盛土のみ
	年代					
	被災履歴		昭和57年台風、それ以前に1回	昭和57年台風、それ以前に1回		
	改修履歴	一部在り	一部在り	あり		
予備診断	基礎点	3	4	6	4	4
	変状点	1	12	0	7	1
	評価	ア	オ	イ	オ	ア

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	無し　　計画名［　　］　策定年度［　　］
実施主体	管理部署　整備部署　調査部署　指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	伐採・除去　景観に配慮し、限定的伐採　✓未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	
植栽管理における課題（自由記述）	西櫓台上のヒガンザクラが西面石垣に影響を与えている可能性があるが、御殿桜と呼ばれるシンボリックな存在となっており、処置が難しい。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	✓石垣の変状（孕み、緩み等）　間詰石の抜け落ち　✓地形の変状（ひび、沈下等） ✓樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　✓危険木の観察　排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	✓目視　機器による動態観測（観測内容： その他［
日常点検の頻度	毎日　週1回程度　月1回程度　✓年数回の定期　災害後のみ　随時 その他［豪雨・地震後は目視による点検を実施。］
点検の主体	整備部署　✓調査部署　管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	ある　✓無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	行っている　今後行う予定　✓行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	
日常点検における課題（自由記述）	

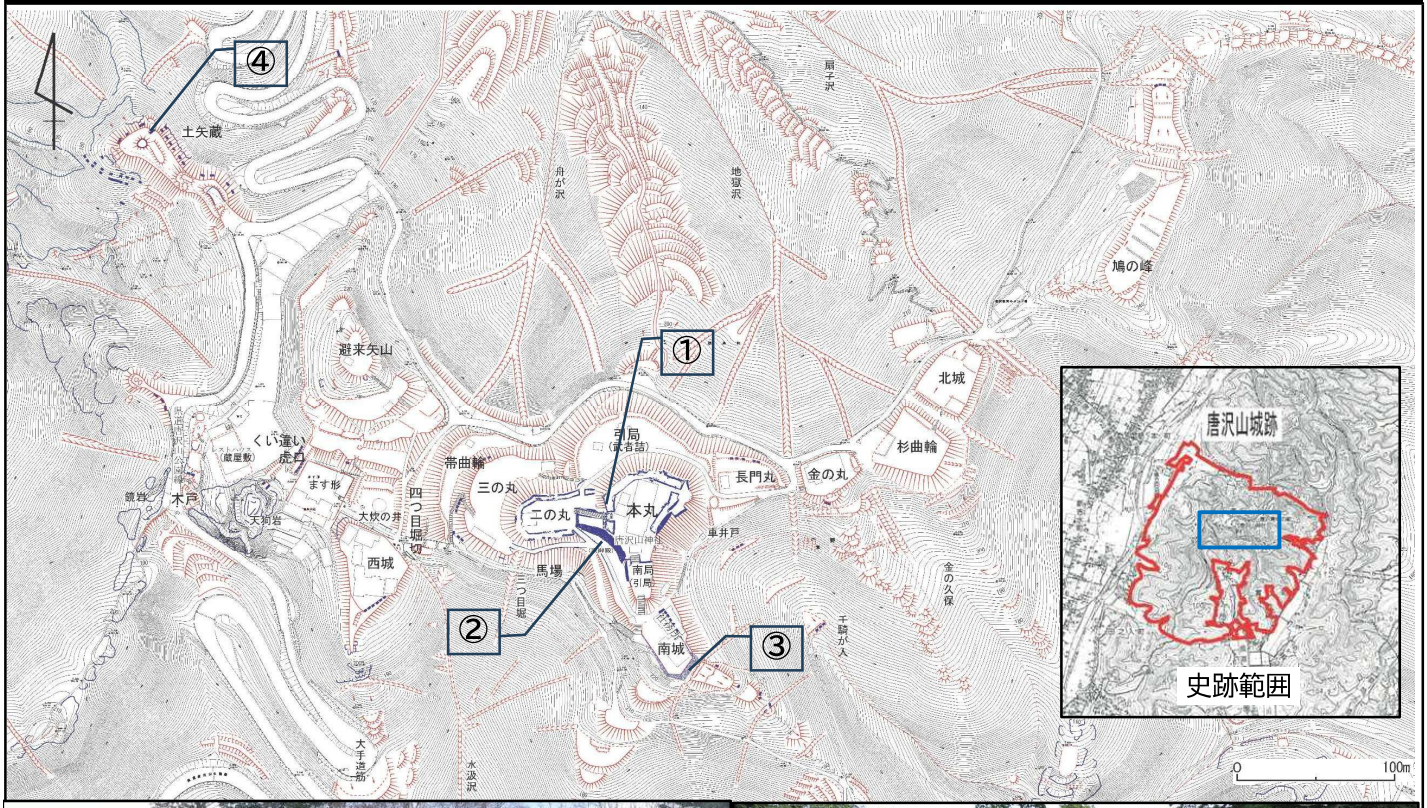
10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ✓近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　昭和58年に西櫓台南面石垣と西面石垣の一部を修理。その際過去の修理の痕跡を確認。］
修理履歴・記録の活用状況	今後の修理計画の検討に活用している 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ✓具体的な活用はしていない その他　［　　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	唐沢山城跡	都道府県	栃木県	市町村	佐野市
文化財種別	国史跡	指定年月日	平成26年3月18日	指定面積	194.192317ha
その他の指定	市街地調整区域、保安林、鳥獣特別保護区、農振農用地区域、土砂災害特別警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域砂防指定地、県立自然公園	その他の法規制	都市計画法、森林法、鳥獣保護管理法、土砂災害防止法、急傾斜地法、砂防法、栃木県県立自然公園条例		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無 平成28年３月策定	整備基本計画	☑ 有 ☐ 無	平成２９年３月策定	
調査担当部署	佐野市教育委員会文化財課 唐沢山城跡保存整備係	整備担当部署	佐野市教育委員会文化財課 唐沢山城跡保存整備係		
管理担当部署	佐野市教育委員会文化財課 唐沢山城跡保存整備係	指定管理者	なし		
委員会設置状況	史跡唐沢山城跡保存整備調査指導委員会 （平成27年3月12日～）	その他計画	なし		
城郭等の概要	平安末頃より佐野庄を中心とする当地域を統治した藤原秀郷流の佐野氏が、享徳の乱(1454)のさなかに築いたとされる山城である。縄張調査によって標高242mの唐沢山頂の本丸をはじめ、山麓の根小屋一帯にまで広く城郭遺構や屋敷跡等が確認された。その城域は約200haにおよび、うち約194haが史跡に指定されている。 戦国期の永禄や天正年間には、越後・上杉氏や相模・北条氏が一時的に入城し、普請を行ったことが史料に残る。天正十八年（1590）の小田原合戦において佐野氏が奪還し、戦後、秀吉家臣の冨田氏より婿養子となった佐野信吉によって織豊系城郭へと整備されたと考えられる。慶長七年（1602）に佐野氏の拠点が佐野城へ移されたことに伴い拠点城郭としての役割を終えている。				
石垣の面積	1,948 ㎡	石垣の総延長	ー km		
石垣の特徴	本丸等の高石垣は文禄～慶長初期に築かれたもので、現存する中では東日本最大規模とされる。石材は唐沢山内でとれるチャートと砂岩の二種で９割以上を占め、その他、史跡外から運ばれた石灰石が虎口等の鏡石に用いられている。特に本丸の大手虎口には、一辺2m超の大型の鏡石一対のほか、多数の鏡石が連立する鏡積みがみられるなど豊臣系石垣の特徴をよく示している。また一方で、城中心部以外には、戦国期に佐野氏が在地の技法で築いたと推測される小型の石材のみを用いた小規模な乱積みの石垣が点在する。				
近代以降の動向	唐沢山は寛永十年(1633)より彦根・井伊家の知行地となり、御林山として厳重に管理がなされたまま明治維新をむかえる。明治2年(1869)の版籍奉還による彦根藩知事の管轄地を経て、廃藩置県により同5年(1872)に栃木県管轄地となる。同6年(1873)に地券が発行され官林となり、同9年(1876)の地租改正で一等官林となっている。その後、佐野家所縁の人々により同16年(1883)に本丸跡に藤原秀郷を祀る唐澤山神社が創建されて以降、現在まで境内地となっている。また、昭和30年には県内2番目の県立自然公園に指定され、市内の代表的な名所として観光利用が進む。一方、同年頃より西麓の根小屋では唐沢観光農場が営まれ、城主の下屋敷跡である御台所等において土地の造成・改変がなされ果樹園として利用された。農場閉園後、同60年代より民間土木会社が資材置場となり現在も利用が継続している。				
維持管理の概要	山頂部は土地所有者である唐澤山神社が、境内地として日常的な維持管理を行っている。また、そのうち城郭遺構等が位置する箇所については本市（史跡の管理団体）が、石垣等の点検や除草等、遺構や見学通路付近の倒木や危険木の緊急伐採を実施している。西麓根小屋の主な屋敷跡の草刈を年2回程度実施している。また、ボランティア団体である史跡唐沢山城跡保存会が、史跡内の環境維持を年６回程度定期的に行っているほか、随時草刈等を実施するなど自主的に取り組んでいる。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）




①本丸虎口


②本丸高石垣


③南城


④土矢倉

参考文献	佐野市教育委員会　2013『唐沢山城跡調査報告書－唐沢山城跡国指定史跡化調査事業報告書－』 佐野市教育委員会　2025『史跡唐沢山城跡石垣保存整備報告書Ⅰ－本丸虎口石垣解体修理工事(令和元～４年度)－』 唐澤山神社・出居博　2023『佐野氏の系譜と唐沢山城』 (公財)佐野市民文化振興事業団　2024『戦国時代を生き抜いた佐野氏と唐沢山城』第78回佐野市郷土博物館企画展資料解説集

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約80%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約80%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☑ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☑ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　令和５～　最終更新：［　］年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☑ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☑ 一部実施済　☐ 実施中　☐ 未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	☑ 自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☐ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☐ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　防水シート敷設　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（90%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐ 経年変化の差分解析等 ☑ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）



石垣 069　カルテNo 069_20260109　記録者 宮澤 貴大
地区 南城　石垣方位 南東　作成日 2026/01/09
部位　築造時期 文禄～慶長初期
地盤 Ⅰ種 地山　①硬い地盤(Ⅰ種地盤相当)
立地/造成 丘陵　被災履歴 不明
管理者 佐野市　備考
上部 現在　改修履歴 なし
上部 過去　備考

位置図 R7位置図.jpg

天端延長 12.4 m
裾部延長 17.7 m
石垣高（左 6.1 m
石垣高（中央） 5.8 m
石垣高（右 5.97 m
絵図・古文書
既往の発掘調査・研究①

被災修理履歴
⑤1回以上変状した記録・痕跡がある。
修理の方法
① 修理にあたり特段の対策はしていない

カルテ図面 069.jpg

069_①.JPG　069_②.JPG　図01 069_③.JPG
図02 069_④.JPG　図03 069_⑤.JPG　図04 No.69_撮影位置.jpg

破損状況　変状個別 0 箇所　変状領域 0 箇所

石垣カルテNo 069_20260109　記録者 宮澤 貴大　記録日 2026/01/09

		緩み	割れ	表面劣化	抜け落ち	孕み出し	前倒れ	崩れ	樹木	天端沈下	土砂堆積	地盤異常
隅角部	天端	無	無	無	有	無	無	無	有	無		
	中段	有	有	無	有	無	無	無	無			
	裾部	有	無	無	有	無	無	無	無		無	無

天端 その他 左隅は植生(サクラ)の影響で石材が脱落し落ち込んでいる。
中段 その他 右隅の一部で間詰石の抜けが見られるが、大きな変状は認められない。
裾部 その他 両隅で石材の落ち込みにより目地の開きが見られる他、部分的に割れが見られる。
観察事項 植生(サクラ)が生える以前の状態は不明瞭。両隅で石材の落ち込みによる目地の開きが見られる。

		緩み	割れ	表面劣化	抜け落ち	孕み出し	前倒れ	崩れ	樹木	天端沈下	土砂堆積	地盤異常
築石部	天端	無	無	無	無	無	無	有	有	無		
	中段	有	有	無	無	無	有	有	無			
	裾部	無	有	無	無	無	無	無	無		無	無

天端 その他 全体的に土のせり出しが見られる他、植生(サクラ)によって石材が抱えられている。
中段 その他 一部で石材の割れ、前倒れが見られる。
裾部 その他 一部で石材の割れが見られるが、大きな変状は認められない。
観察事項 天端全体で土のせり出しが見られる他、一部で石材の割れや前倒れが見られる。
変形の観測 一部で石材の割れが見られる他、天端に土の迫出し、樹木、面隅根部に緩みが認められる。
崩落可能性 現状で崩落の可能性は低い。両隅の変状や植生の影響による経年的な変化には注意が必要。
利用健全度 利用者による立入は比較的少ないが、離隔距離が１分ではないため注意喚起、立入禁止等の処置を検討する。
健全度 崩落の可能性は低いが、崩落した場合には利用者に影響があるため、対策が必要。
特記事項 注意喚起（石垣周辺・上部平場）、立入禁止（神社参道側・南城山道側）等の処置を検討する。
変形区分 a2　利用上区分 b3　対処すべき優先度 優先度C

備考 チャート：85.1%　砂岩：14.7%　石灰岩：0.1%　岩舟石：0.1%　/　隅角部 石垣様式：初源的な算木積

隅角部 石垣様式

平面形状
左隅 出角　右隅 出角

立面形状
段数（左） 17 段　段数（右） 14 段
勾配（左） 58 度　勾配（右） 57 度
反り（左）　反り（右）

石積技法・寸法・加工技法
石積技法(左) 算木積　石積技法(右) 算木積
角脇形態(左) 不明　角脇形態(右) 不明
角脇石数(左) 0 石　角脇石数(右) 0 石
寸法(左)最小 0.09 ㎡　寸法(右)最小 0.092 ㎡
寸法(左)最大 0.244 ㎡　寸法(右)最大 0.615 ㎡
規格性（左）　規格性(右)
間詰石（左） 有（少）　間詰石(右) 有（少）
加工技法(左) 白然石（野面石）　加工技法(右) 白然石（野面石）
石材加工痕跡 野面, 粗割, ハツリ, タタキ
石質① チャート 85.1 % 刻印 無
石質② 砂岩 14.7 % 矢穴 無
石質③ 石灰岩 0.1 % 植生 有（中）

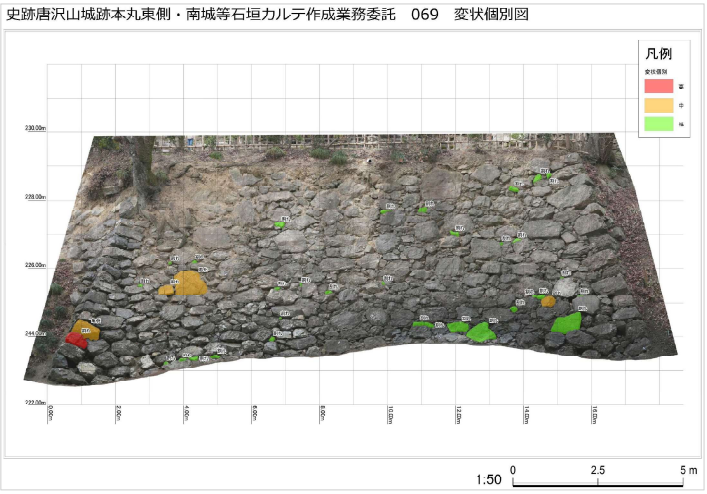
隅角部 観察事項
左隅上部の植生(サクラ)により石材が脱落し落ち込んでいる。両隅下部（下から6段程度）では石の脱落による落ち込みと目地の開きが見られる。右隅角部にはさみ石が見られる。

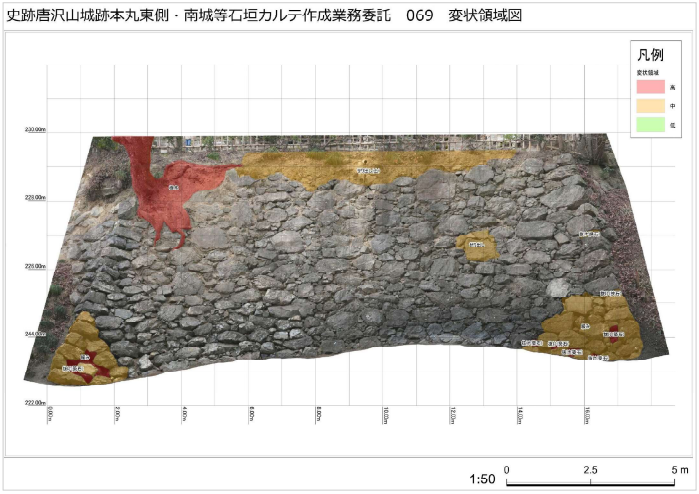
築石部 石垣様式

平面形状 一文字
立面形状 ① 非石築(栗石層+地山)
高さ/勾配 ④高さ6m以上10m未満 勾配70°以下
勾配 左端 58度　気負い　反り
勾配 右端 57度　最大勾配位置 左　最大勾配(頂～2m 度
勾配 中央 55度
平均勾配 56.7度
勾配 10m間隔石垣高に変化がある場合は変換点

石積技法・寸法・加工技法
石積技法 布積崩し
寸法 最小 0.023 ㎡　寸法 最大 1.035 ㎡
規格性　間詰石 有（多）
加工技法 自然石（野面石）
加工痕跡 野面, 粗割, ハツリ
石質① チャート 85.1%　刻印 無
石質② 砂岩 14.7%　矢穴 無
石質③ 石灰岩 0.1%　植生 有（中）

築石部 観察事項
左側上部の植生(サクラ)により石材が抱えられている。天端全体で土のせり出しが見られる。





8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☑ 管理部署　☑ 整備部署　☑ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☑ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	R5南城東側・二の丸南側竹木伐採、R6南城西側樹木伐採、R7南城南側樹木伐採
植栽管理における課題（自由記述）	車両の進入が困難な箇所は作業方法に制約がかかり、実施費用が高額になるなど予算確保に課題がある。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☑地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑危険木の観察　☐排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☑ 機器による動態観測（観測内容： 本丸虎口石垣No.30積み直し工事箇所の観測 ） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☑ 月1回程度　☐年数回の定期　☐災害後のみ　☑随時
点検の主体	☑ 整備部署　☑ 調査部署　☑ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	調査指導委員会へ状況報告を行ったうえで、対応の内容を検討し、実施している。
日常点検における課題（自由記述）	高石垣等に対して目視だけでは観察できない範囲が多く、高位置の個別の変状の確認が困難である。

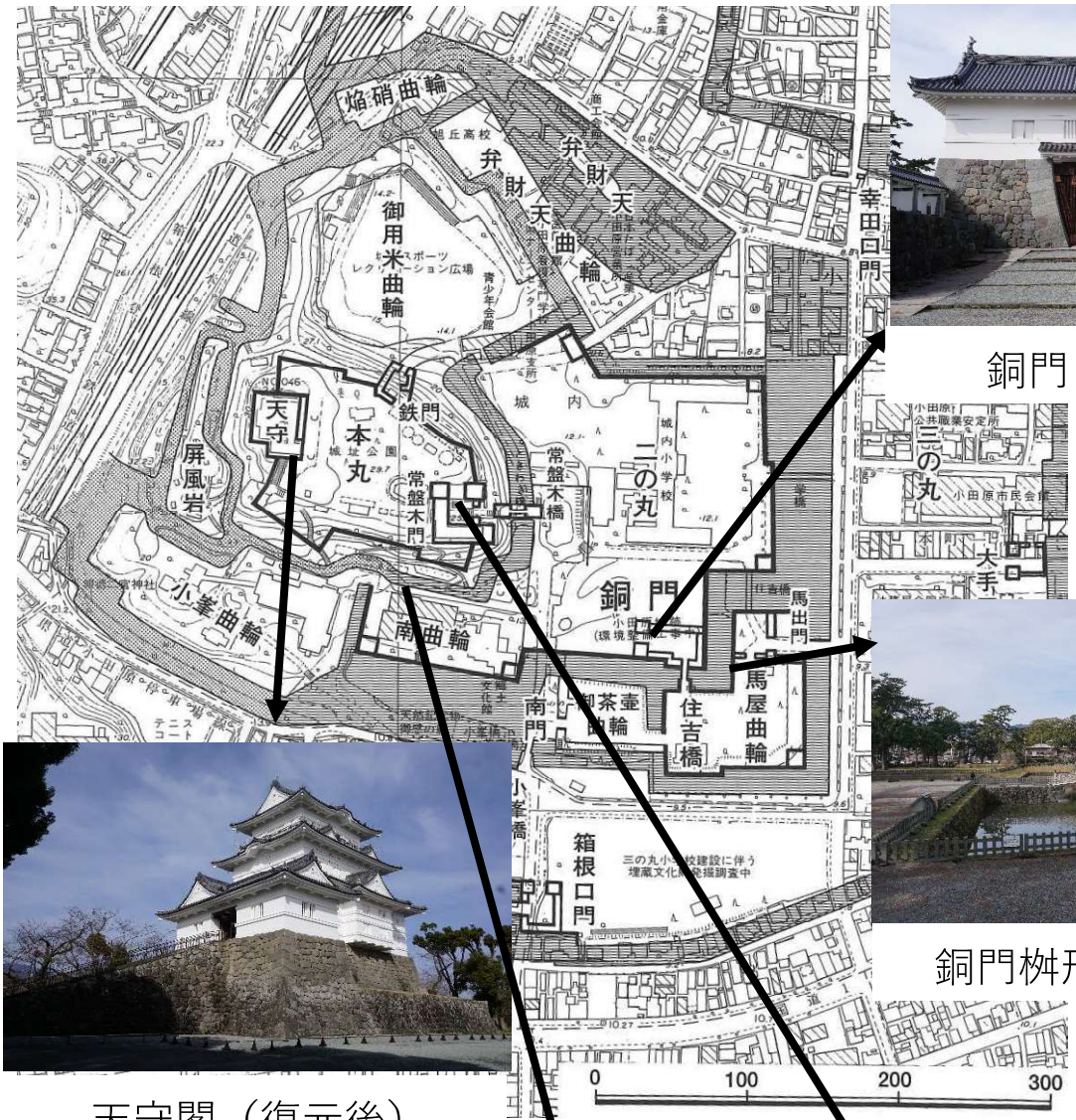
10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　普請・修復に関する資料は確認できておらず、様相は不明。　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　ほとんどの履歴が不詳である。　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☑ 具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項

名称(遺跡名)	史跡小田原城跡	都道府県	神奈川県	市町村	小田原市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和13年8月8日	指定面積	309567.17㎡
その他の指定	小田原城天守模型2基（県指定有形文化財（建造物）） 小田原城再興碑（市指定有形文化財（美術工芸品）） 小田原城再興天守棟札（市指定有形文化財（美術工芸品））ほか	その他の法規制	都市計画公園（小田原城址公園） 景観法（小田原市景観計画（景観計画重点区域（小田原城周辺地区）） 小田原市風致地区条例（第1種風致地区） 都市緑地法（小田原市緑の基本計画） 宅地造成及び特定盛土等規制法		
保存活用計画	☑ 有 ☐ 無 令和3年３月策定	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	小田原市文化部文化財課	整備担当部署	小田原市文化部小田原城総合管理事務所		
管理担当部署	小田原市文化部小田原城総合管理事務所（公有地） 小田原市文化部文化財課（公有地のうち）	指定管理者	一般社団法人小田原市観光協会（小田原城天守閣、小田原城常盤木門（SAMURAI館）、小田原城歴史見聞館（NINJA館））		
委員会設置状況	史跡小田原城跡調査・整備委員会（昭和57年～） 史跡小田原城跡調査・整備委員会植栽専門部会（平成22年～） 史跡小田原城跡保存活用計画策定部会（平成30年～令和2年） 史跡小田原城跡御用米曲輪戦国期整備検討部会（令和4年～）	その他計画	小田原市文化振興ビジョン 小田原市博物館基本構想 小田原市歴史的風致維持向上計画 小田原市都市計画マスタープラン 小田原市地域経済振興戦略ビジョン 小田原市観光戦略ビジョン 小田原市森林整備計画 小田原市農業振興計画 小田原市地域防災計画		
城郭等の概要	小田原城跡は、15世紀中ごろの大森氏の築城と言われ、戦国時代には戦国大名北条氏が約100年にわたって小田原城を本拠地とし、関東一円に勢力を及ぼした。北条氏時代の小田原城は、豊臣秀吉との小田原合戦に備えた周囲9㎞に及ぶ長大な総構を巡らした。北条氏が豊臣秀吉に敗れた後、小田原城は徳川家康の支配下となり、江戸時代には江戸城の西の守りの要としての役目を果たし、大久保氏など江戸幕府の譜代大名が城主を努め、明治3年（1870）に廃城となった。 史跡整備としては、昭和13年に史跡指定され、本丸・二の丸の大半は、小田原城址公園として利用され、江戸時代末期の姿での整備を基本としている。平成元年度に住吉橋を復元、平成20年度には馬出門の復元的整備、平成22年度には馬屋曲輪全体の修景整備を完了している。平成22年度からは御用米曲輪の修景整備に着手している。				
石垣の面積	約9164 ㎡	石垣の総延長	ー ㎞		
石垣の特徴	史跡小田原城跡の石垣は箱根火山を構成する溶岩類による石材で構成されている。関東大震災により、江戸時代の石垣の多くが崩れたため、南曲輪の石垣を除いて現存する石垣の大半は復元工事による積み直しである。				
近代以降の動向	明治3年（1870）に、最後の藩主で版籍奉還後の小田原藩知事、大久保忠良が明治新政府へ小田原城の廃城を願い出て、天守と4つの櫓が解体され払い下げられた。廃藩置県後は、小田原県の設置、その廃止に伴う足柄県への統合で、藩庁として使用された小田原城二の丸御屋形は県庁となった。明治23年（1890）には、旧藩主家の大久保忠礼が小田原町側の説得を受け申し出た本丸・二の丸等の払下げが陸軍第一師団から認められた。明治25年（1892）、小田原町は町有地となった小峯曲輪を報徳二宮神社創建のために売却した。明治34年（1901）には、本丸・二の丸が小田原御用邸となった。明治42年（1909）には老朽化した二の丸東南隅の平櫓、馬出門などの改変が行われた。大正12年（1923）の関東大震災では、天守台や堀の石垣が崩れ、御用邸建物や二の丸隅櫓も倒壊した。昭和13年（1938）に国史跡の指定がなされた。戦後、史跡小田原城跡の中には星崎記念館（旧市立図書館）、こども遊園地、動物園などの施設がおかれ、昭和25年（1950）に天守台石垣復旧工事が行われ、昭和35年（1960）に鉄筋コンクリート（RC）製の天守閣が完成し、以後常盤木門、馬屋曲輪、馬出門、銅門の復元が行われた。また、昭和46年（1972）以降発掘調査が行われ、以後、今日まで修景整備工事が行われてる。				
維持管理の概要	史跡小田原城跡の維持管理は、平成29年度（2017）に小田原城総合管理事務所の発足以降、文化財課と小田原城総合管理事務所の2組織により管理・運営を行っている。文化財課が史跡指定地全体の保存・管理・整備を担い、小田原城総合管理事務所が小田原城址公園（本丸・二の丸周辺）の表面管理や所在する施設や整備した施設（馬出門・銅門等）の日常の管理・運営など、公開活用ができる段階になった公有地や施設の管理・運営を担ってきた。その後、令和8年度（2026）より、文化財課より史跡整備係が小田原城総合管理事務所に移管されたことから、史跡整備に係る業務が小田原城総合管理事務所に移った。また、平成29年度（2017）に指定管理者制度を導入して以来、小田原城天守閣・常盤木門（SAMURAI館）・歴史見聞館（NINJA館）を指定管理者が管理している。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





銅門（復元後）



銅門桝形（復元後）

天守閣（復元後）



本丸南堀（関東大震災で崩れた石垣）



常盤木門（復元後）

参考文献	小田原市教育委員会　1999『銅門復元工事報告書』 小田原市教育委員会　2010『史跡小田原城跡馬屋曲輪整備事業報告１　史跡小田原城跡　馬出門』 小田原市教育委員会　2014『史跡小田原城跡馬屋曲輪整備事業報告2　史跡小田原城跡　馬屋曲輪』 小田原市教育委員会　2021『史跡小田原城跡保存活用計画』 小田原市教育委員会　2025『史跡小田原城跡二の丸住吉堀修景整備報告　史跡小田原城跡　住吉堀』 小田原市教育委員会　2026『小田原市文化財保存活用地域計画』

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☐一部作成済 （作成率：約　%）　☑ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☑未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☐ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　　] 年　最終更新：［　　] 年
管理方法	☐ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☐ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐一部実施済　☑実施中　☐ 未実施（検討中） 未実施の理由　[　]
実施方法	☑自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	予備診断を実施するための基礎知識の修得が課題。また、堀の水位を下げて観察・記録する等、実施時期を検討する必要がある等課題がある。

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐不透水層の設置　☐遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☑ 復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐全面的に取得済　☑一部取得済（　%）　☐未取得（計画中）　☐予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑地上型3Dレーザースキャン　☐UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐航空レーザー測量　☑スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☐調査・研究　☑ 記録保存　☑経年変化の差分解析等 ☑VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

64

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☑ 有　☐ 無　　計画名［小田原城址公園植栽管理短期計画］　　策定年度［令和5年］
実施主体	☑ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☐ 伐採・除去　☑ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	
植栽管理における課題（自由記述）	

9.日常点検・実施体制

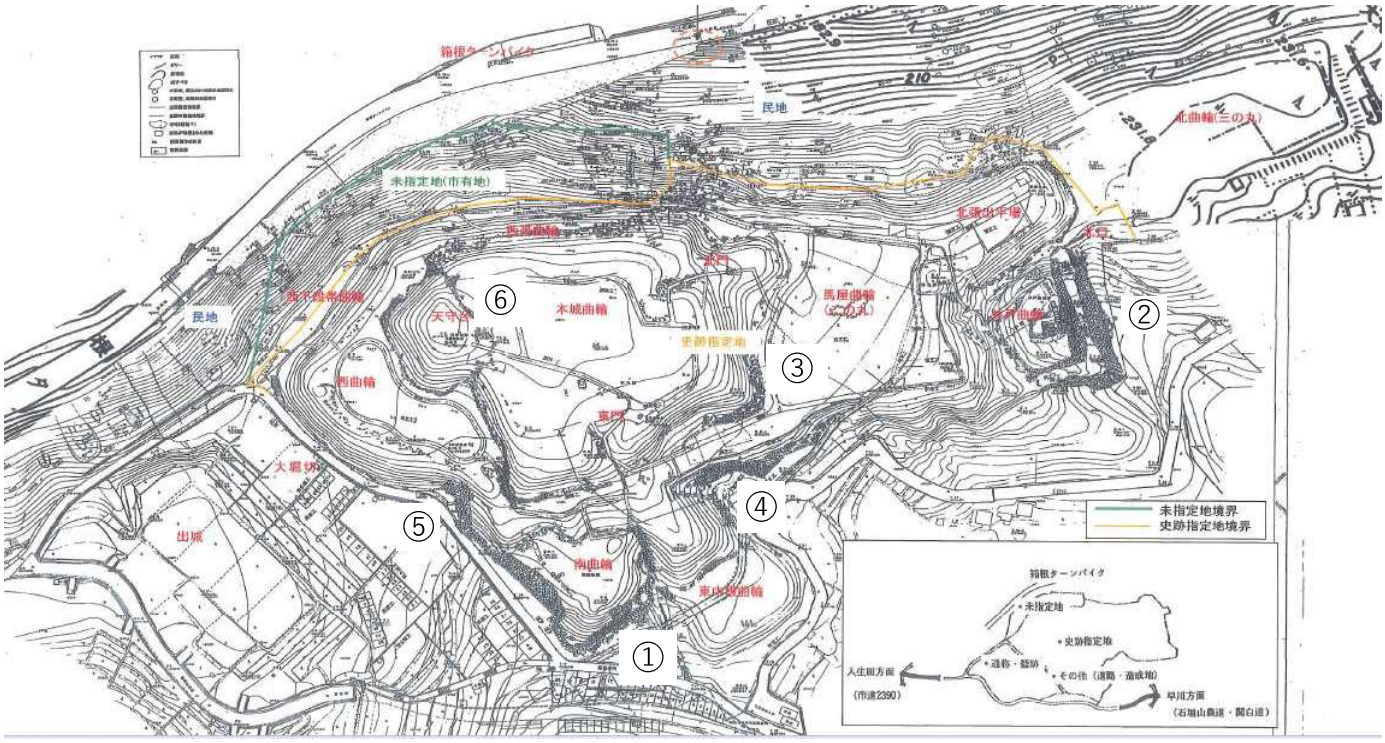
日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 機器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐ 年数回の定期　☐ 災害後のみ　☑ 随時
点検の主体	☐ 整備部署　☐ 調査部署　☑ 管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	
日常点検における課題（自由記述）	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☑ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☑ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☐ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☑ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　］

1.城跡等の総括的事項					
名称(遺跡名)	史跡石垣山	都道府県	神奈川県	市町村	小田原市
文化財種別	国指定史跡	指定年月日	昭和34年5月13日	指定面積	48263㎡
その他の指定	富士箱根伊豆国立公園特別地域石垣山園地（自然公園法）	その他の法規制	小田原市文化振興ビジョン 小田原市博物館基本構想 小田原市歴史的風致維持向上計画 小田原市都市計画マスタープラン 小田原市地域経済振興戦略ビジョン 小田原市観光戦略ビジョン 小田原市森林整備計画 小田原市農業振興計画 小田原市地域防災計画		
保存活用計画	□ 有 ☑ 無	整備基本計画	□ 有 ☑ 無		
調査担当部署	小田原市文化部文化財課	整備担当部署	小田原市文化部小田原城総合管理事務所		
管理担当部署	小田原市文化部小田原城総合管理事務所	指定管理者	ー		
委員会設置状況	史跡小田原城跡調査・整備委員会	その他計画	小田原市文化財保存活用地域計画		
城郭等の概要	石垣山は箱根から派生する山上にある。関白豊臣秀吉が天正18年（1590）の小田原合戦の際に築いた陣城で、徳川家康の家臣松平家忠の記した「家忠日記」に「石かけの御城」とあることから「石垣山城」と呼ばれている。この城の石積みは近江の穴太衆による野面積みで、度重なる大地震にも耐え、当時の面影を大変よく残している。野面積みの石垣は安山岩やデイサイトと呼ばれる火山岩の一種で構成され、箱根ジオパークのジオサイトとなっている。 また、石垣山は完成当時の姿が文書等に多く記載され、石垣の大半が崩壊しているものの、本格的な石垣の城として歴史的価値を有している。平成元年度から、歴史公園として一般公開している。経年により不安定となってる石垣については、保全対策工事を平成17年度から断続的に実施している。				
石垣の面積	ー ㎡	石垣の総延長	ー ㎞		
石垣の特徴	野面積みの石垣で、戦国末から近世初頭へ向かう石垣技術をみることができる。				
近代以降の動向	明治時代になると、一時官有地となったが、1876年小田原十字町松岡仁右衛門氏が買収した。後に一部を早川村民に分売したが、本城曲輪、馬屋曲輪、井戸曲輪等城跡の主要部分はその後も松岡家の手で良好に管理されてきた。富士箱根国立公園内にあることも幸いして、耕作以外、人の手による改変を受けることはなかった。1959年には同家の所有地が国の史跡として指定された。1988年に小田原市では国の補助を得て松岡家所有地を買収し、1990年に園路や便益施設の設置を中心とした公園整備を行い、現在は一般解放している。この整備工事に先立って1987年に市教育委員会では指定地全体の測量調査を行うとともに、1988年の1月から3月にかけて、第1期工事で園路が設定される北門についての現況調査を行い、園路計画を変更した。1989年に詳細分布調査を実施、さらに1990年には天守台の現況測量を行っている。その後、2003年7月に大雨によって、史跡石垣山北西側斜面地の石が下のターンパイクにまで落ちる事故があり、不安定な石が多数存在することが確認されたため、石垣保全対策工事を行った。				
維持管理の概要	史跡石垣山（石垣山一夜城歴史公園）における維持管理は、来場者の安全確保および史跡として価値のある石垣の崩落を防ぐために、危険樹木の伐採・剪定による日常的な維持管理を行っている。また、外部委託により除草や適正な樹木管理等を行うとともに、園内パトロール、植栽手入れ等を実施している。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





南曲輪



井戸曲輪



本城曲輪



馬屋曲輪東側



西曲輪



天守台

参考文献	小田原市教育委員会　1991『史跡石垣山Ⅰ－1988年度測量調査報告－』小田原市文化財調査報告書第35集 小田原市教育委員会　1992『史跡石垣山Ⅱ－1989年度詳細分布調査報告－』小田原市文化財調査報告書第38集 小田原市教育委員会　1993『史跡石垣山Ⅲ－1990年度詳細分布調査－』小田原市文化財調査報告書第44集

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☐ 昨成済　☑一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約　%）　☐未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署 その他［令和７年度まで、石垣保全対策工事に伴い調査部署（文化財課）が委託業務の中で作成　］
実施主体	☐ 自治体職員　☑ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[　平成17] 年　最終更新：［　　］年
管理方法	☑ 紙台帳　☐ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針（案）に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐一部実施済　☐実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　［　］
実施方法	☐自治体直営　☐ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☑ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

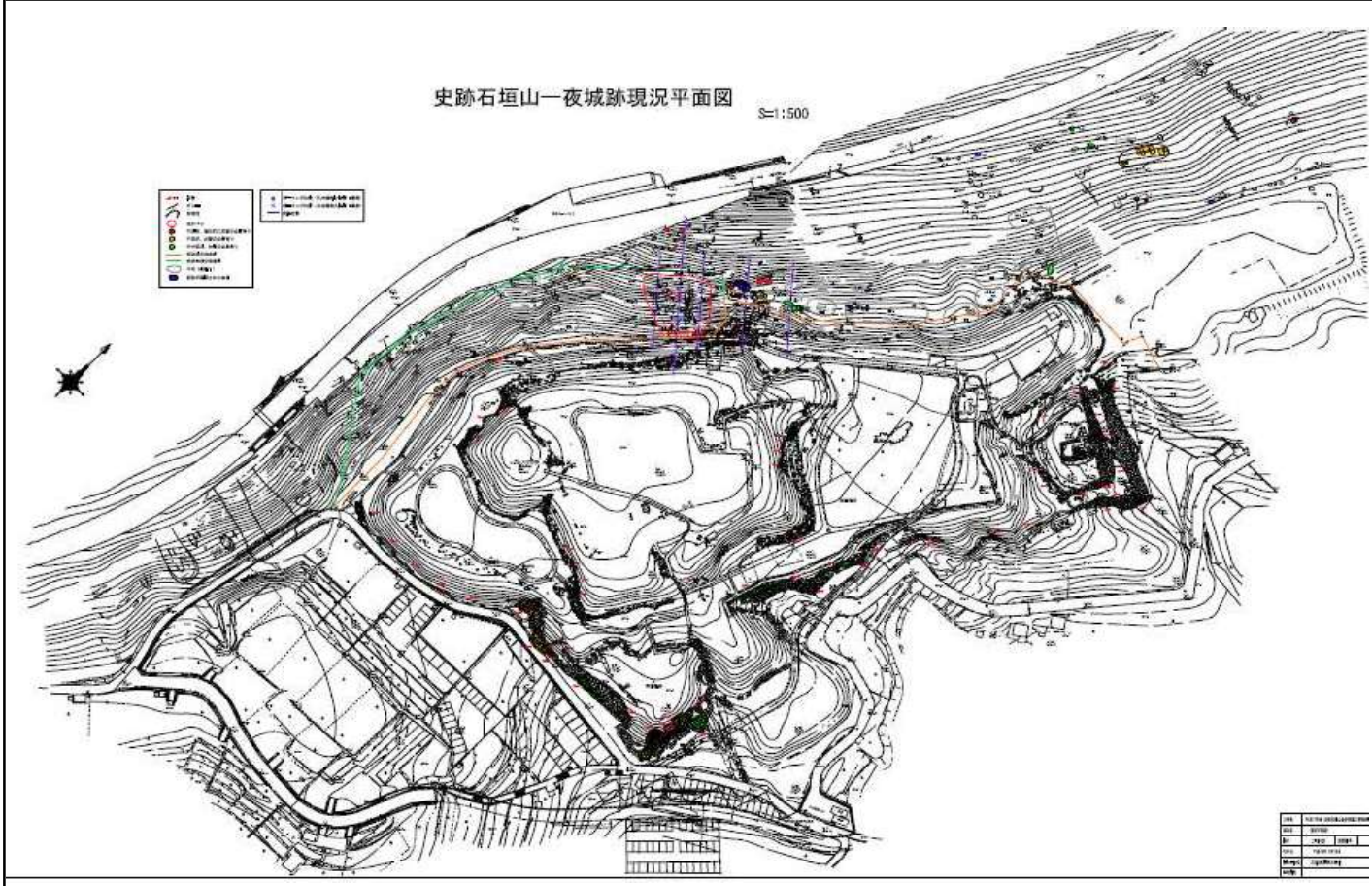
5. 降雨対策の実施状況（一部でも可、また今後の実施計画含む）

石垣構造内への遮水対策の内容（複数回答可）	☐ 植栽による遮水　☐不透水層の設置　☐遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容（複数回答可）	☑ 公園施設の既存側溝　☐構に影響を与えない新設排水　復☐した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐全面的に取得済　☑一部取得済（　%）　☐未取得（計画中）　☐予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐航空レーザー測量　☑スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的（複数回答可）	☑ 調査・研究　☑ 記録保存　☐経年変化の差分解析等 ☑ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）



H16年度作成　「石垣山落石防止対策現況基礎調査」に基づく現況平面図

8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☐ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☐ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	R7：南曲輪石垣保全対策工事に伴う危険樹木の伐採・剪定。
植栽管理における課題（自由記述）	石垣や来訪者に影響を及ぼす危険樹木の伐採・剪定と修景のための伐採・剪定を順次進めて行く必要がある。

9.日常点検・実施体制

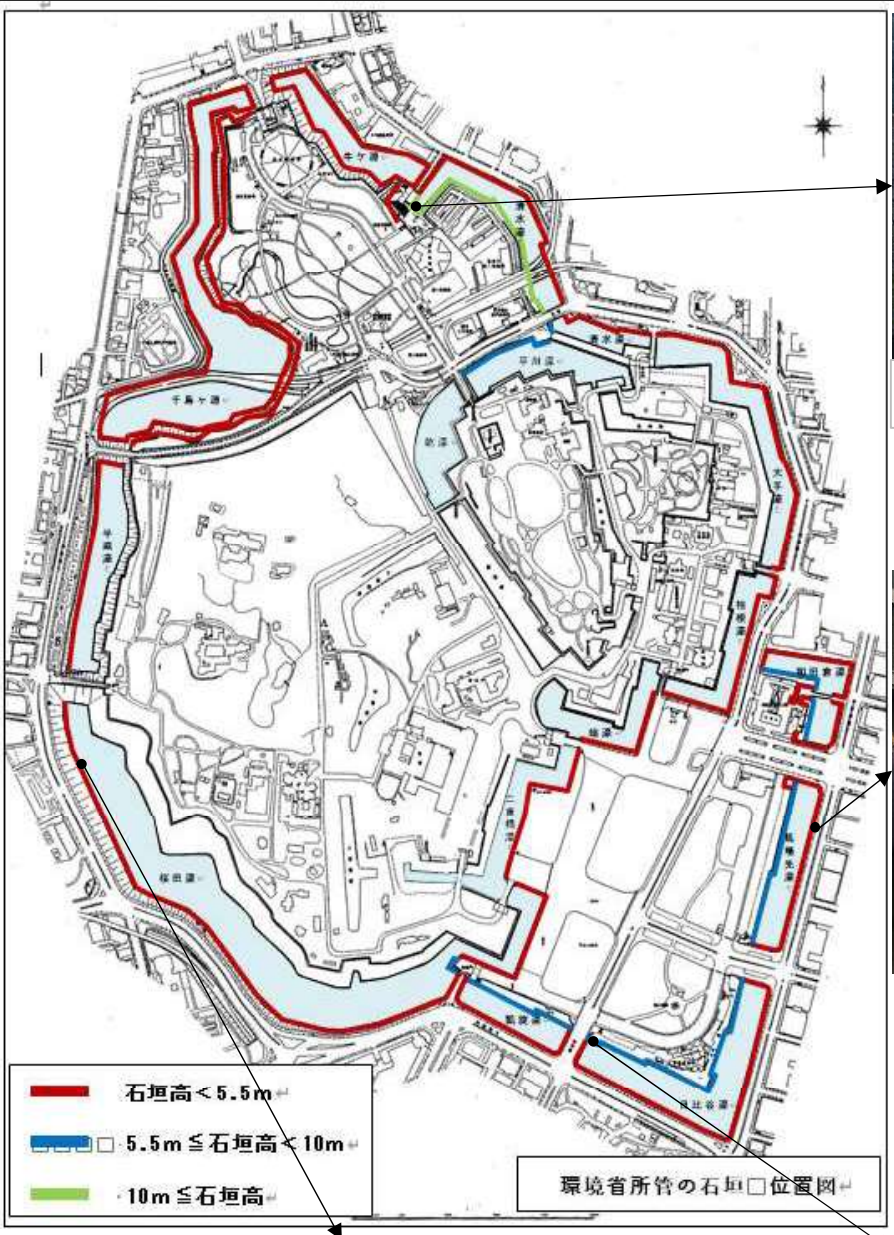
日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☐ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑ 危険木の観察　☐ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☐ 器による動態観測（観測内容：　　） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 1回程度　☐ 月1回程度　年☑回の定期　☐ 後のみ　☑ 時
点検の主体	☑ 整備部署　☐ 査部署　☑ 管理部署　委託（指定管理等）　ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	
日常点検における課題（自由記述）	

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［　　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　　］
修理履歴・記録の活用状況	☐ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☑ 具体的な活用はしていない その他　［　　］

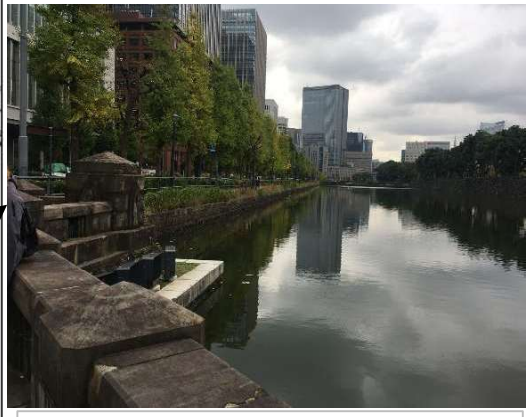
1.城跡等の総括的事項					
名称(遺跡名)	特別史跡江戸城跡	都道府県	東京都	市町村	千代田区
文化財種別	特別史跡	指定年月日	昭和38年5月30日	指定面積	不明
その他の指定	なし	その他の法規制	なし		
保存活用計画	☐ 有 ☑ 無	整備基本計画	☐ 有 ☑ 無		
調査担当部署	環境省皇居外苑管理事務所庭園科	整備担当部署	環境省皇居外苑管理事務所庭園科		
管理担当部署	環境省皇居外苑管理事務所庭園科	指定管理者	なし		
委員会設置状況	設置なし	その他計画	なし		
城郭等の概要	江戸城は、長禄元年（1457年）に太田道灌によって築かれた。その後、上杉氏、北条氏の支配を経て、天正18年（1590年）に関東へ入った徳川家康の居城となった。徳川氏による大規模な拡張・整備を通じて国内有数の城郭となり、江戸時代には歴代将軍の居所として、また幕府政治の中心として重要な役割を果たした。現在は、西の丸・吹上地区が皇居として利用されている。				
石垣の面積	約55,000 ㎡	石垣の総延長	約12 ㎞		
石垣の特徴	皇居外苑の石垣は、江戸城の歴史を伝える近世の石垣を残し、濠に面する高石垣や、法面の上部と下部に石垣を配した鉢巻・腰巻石垣など、多様な形態を有する。石材としては安山岩類（主に本小松石）が用いられ、布積・布積崩し・乱積などの積み方や、ノミ・タタキ等の加工が確認されている。また、同一の石垣内でも石材の大きさや積み方が異なり、積み直し痕などから複数時期の構築・修復の履歴を読み取ることができる。				
近代以降の動向	明治元年（1868）、江戸城は皇居となり、徳川将軍の居城から天皇の居所へと役割を変えた。明治以降、皇居前広場の整備や道路建設が進められ、石垣にも積み直しや補修・補強などの改変が加えられた。 戦後、昭和24年（1949）に皇居外苑が国民公園として一般に開放され、昭和35年（1960）には江戸城跡が国史跡、昭和38年（1963）には特別史跡に指定された。昭和44年（1969）には北の丸公園が開園し、昭和46年（1971）には皇居外苑の所管が厚生省から環境庁へ移された。 石垣については、近代以降の積み直しやモルタルによる補修・補強、一部の腰巻石垣の改修が確認されている。平成30年度（2018）には石垣緊急調査が実施され、変状の把握、写真測量や三次元レーザー計測、石垣カルテの作成等が行われた。現在は、毎年の除草や危険箇所に設置した傾斜計によるモニタリングを通じて、石垣の保全と安全確保に取り組んでいる。				
維持管理の概要	皇居外苑の石垣の維持管理では、毎年、石垣面の除草を実施している。また、危険性が認められる箇所には傾斜計を設置し、石垣の傾斜の変化を継続的にモニタリングしている。計測結果から変状の進行状況を把握し、現地の状況と併せて安全性を確認することで、必要な対策の検討につなげている。こうした日常的な管理と継続的な監視を通じて、石垣の異常の早期把握に努め、文化財としての保全と周辺利用者の安全確保を図っている。				

2.城郭の概要等に関する図面・写真（城域・指定範囲・各曲輪配置・石垣配置・関連建造物配置等）





清水濠石垣　令和８年度改修予定



馬場先濠石垣　平成31年度一部改修



桜田濠石垣　平成27年度～改修



祝田口石垣　平成21年度改修

参考文献	

3. 石垣カルテの作成状況

カルテの作成状況	☑ 昨成済　☐ 一部作成済 （作成率：約　%）　☐ 未作成 その他［　］
オルソ画像の作成	☐ 昨成済　☑ 一部作成済 （作成率：約80%）　☐ 未作成 その他［　］
作成担当部署	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署 その他［　］
実施主体	☐ 自治体職員　☑ 民間委託業者　☐ 専門職員と委託業者共同 その他［　］
作成年 / 更新年	初回：[平成30] 年　最終更新： [平成30] 年
管理方法	☐ 紙台帳　☑ Excel・Word等　☐ GIS　☐ 3Dデジタルツイン その他［　］
カルテの更新頻度	☐ 毎年　☐ 数年に一回　☐ 随時　☑ 更新していない その他［　］
カルテ作成の課題	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］

4. 文化財石垣耐震診断指針(案)に基づく予備診断の実施状況

予備診断の実施状況	☐ 実施済　☐ 一部実施済　☐ 実施中　☑ 未実施（検討中） 未実施の理由　[既知の危険箇所の修復対応を優先しているため。]
実施方法	☐ 自治体直営　☑ 委託　☐ 専門職員と委託業者共同
予備診断実施等の課題（複数回答可）	☐ 予算不足　☑ 専門職員不足　☑ 時間的不足 その他［　］
予備診断における課題（自由記述）	

5. 降雨対策の実施状況(一部でも可、また今後の実施計画含む)

石垣構造内への遮水対策の内容(複数回答可)	☐ 植栽による遮水　☐ 不透水層の設置　☐ 遮水シートの埋設　☐ 表面舗装 ☑ 未実施（既存の表面排水含む） その他［　］
表面水の排水対策の内容(複数回答可)	☑ 公園施設の既存側溝　☐ 遺構に影響を与えない新設排水　☐復元した排水遺構 新設排水の具体的な実施内容［　］ その他［　］

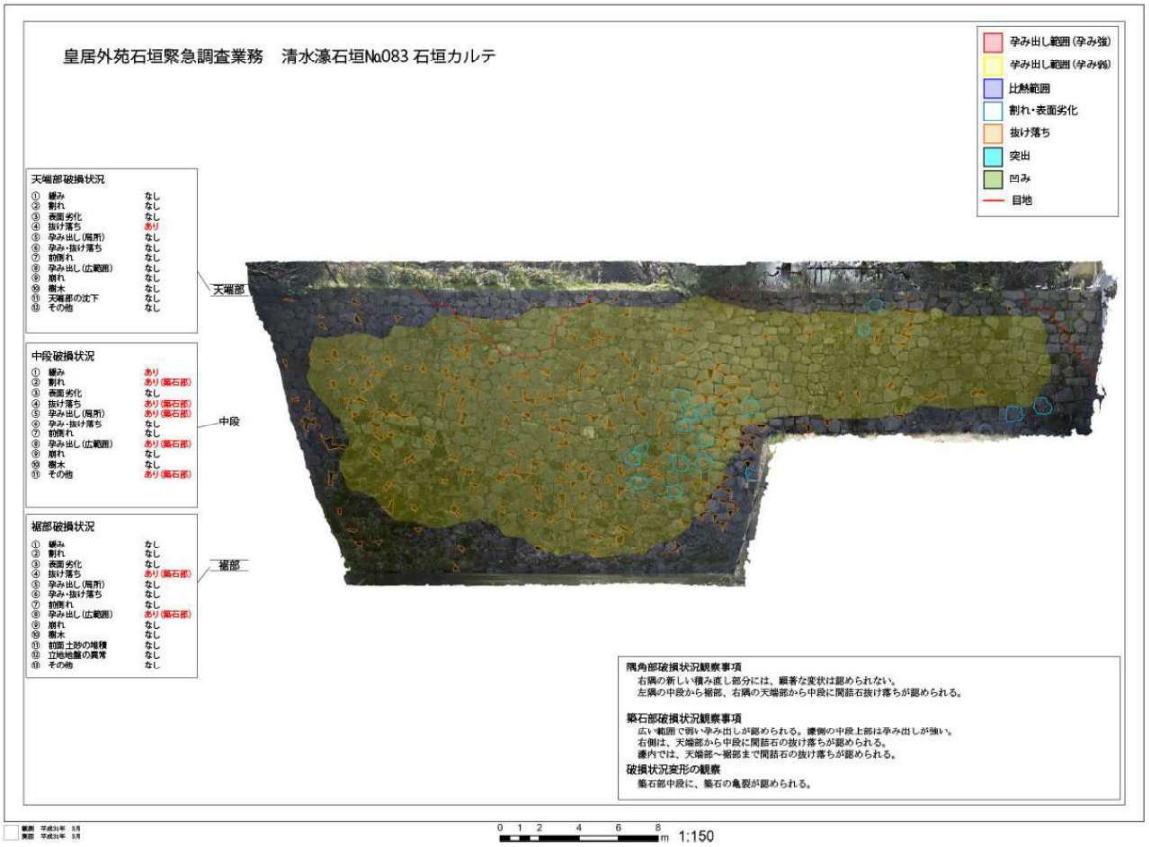
6.3Dデータの取得・活用状況

3Dデータの取得状況	☐ 全面的に取得済　☑ 一部取得済（1%）　☐ 未取得（計画中）　☐ 予定なし その他［　］
主な計測手法（複数回答可）	☑ 地上型3Dレーザースキャン　☑ UAV（ドローン）等によるSfM写真測量 ☐ 航空レーザー測量　☐ スマホ・タブレット（LiDAR等） その他［　］
3Dデータの主な活用目的(複数回答可)	☐ 調査・研究　☑ 記録保存　☑ 経年変化の差分解析等 ☐ VR/AR等のデジタルコンテンツ化、公開・活用 その他［　］

7.石垣カルテ・耐震予備診断に関する図面・写真（作成カルテの事例、予備診断の内容等）

石垣カルテ抜粋　清水濠石垣





8.樹木管理

植栽管理計画の有無	☐ 有 ☑ 無　　計画名［　　］　　策定年度［　　］
実施主体	☐ 管理部署　☑ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 指定管理者 その他［　　］
石垣及び周辺樹木への対応方針（天端・法面・根石付近）	☐ 伐採・除去　☐ 景観に配慮し、限定的伐採　☑ 未実施 その他　［
植栽管理の実績・内容等（直近5年以内）	毎年、石垣除草に併せて低木の伐採を行っている。また、各石垣に生育する樹木について、樹形を小さくするための強剪定を実施している。
植栽管理における課題（自由記述）	強剪定により樹形が損なわれる場合があり、景観に配慮した剪定方法が課題となっている。特にサクラは地域住民に親しまれているため、剪定の程度や方法について慎重な配慮が必要である。

9.日常点検・実施体制

日常点検の内容	☑ 石垣の変状（孕み、緩み等）　☑ 間詰石の抜け落ち　☑ 地形の変状（ひび、沈下等） ☑ 樹木・草木の繁茂（目地からの繁茂等）　☑ 危険木の観察　☑ 排水機能の状況 その他［
日常点検の手法	☑ 目視　☑ 機器による動態観測（観測内容：孕みが大きい1濠のみ傾斜監視システムOKIPPAを設置し傾斜を観測） その他［
日常点検の頻度	☐ 毎日　☐ 週1回程度　☐ 月1回程度　☐ 年数回の定期　☐ 災害後のみ　☑ 随時
点検の主体	☑ 整備部署　☐ 調査部署　☐ 管理部署　☐ 委託（指定管理等）　☐ ボランティア・市民団体 その他［
石垣の変状について、「修理」を検討する具体的な変位量の閾値があるか	☐ ある　☑ 無い　／　ある場合の具体的内容
閾値の設定について整備委員会等で議論を行っているか	☐ 行っている　☐ 今後行う予定　☑ 行っていない
変位確認後の対応スキーム（自由記述）	対象箇所の測量により変状の範囲・程度を把握し、修復に向けた実施設計を行う。
日常点検における課題（自由記述）	目視による点検では変位の程度や進行を定量的に把握することが難しく、崩落など変状が顕在化してからの対応となりやすい。

10. 石垣修理履歴・記録の把握

江戸期の修理履歴の把握度	☐ 普請、絵図面、家老日誌等により、修理時期や場所が特定されている ☐ 上記の史資料は残されているが、時期・場所の特定はされていない その他　［史資料は残されておらず、修理履歴は把握していない　］
近現代の修理記録の把握度	☐ 明治以降、全ての修理が把握されている（施工箇所、工法、図面、写真等） ☐ 戦後の主要な修理は把握しているが、明治～戦前の記録は不明 ☑ 近年の大規模な修理のみ把握している その他　［　］
修理履歴・記録の活用状況	☑ 今後の修理計画の検討に活用している ☐ 日常の維持管理や点検する際の重点箇所として活用している ☐ 具体的な活用はしていない その他　［　］